

## 令和7年「鹿児島近代」研究センター春のシンポジウム

## 「総合的な探究の時間」成果報告会 要旨集

## 鹿児島県立鶴丸高等学校

## 「鹿児島の坂道について」児玉結花

鹿児島県には坂道が多くある。祖父の家も急勾配の坂にあるため、祖父の坂の上り下りの状況が心配だった。坂の上り下りの頻度が減ると、身体機能やメンタルヘルス上の困難が生じるのではないかと考えた。そこで坂の多い県として知られる長崎にはどのような工夫がなされているのか気になり、長崎の坂の上り下りを楽にするために導入されているシステムを調べてみたところ、画期的な斜面移送システムという装置が導入されているということを知り、それを鹿児島県でも導入できたらいいのではないかと考え、導入の可能性について検討した。また、今後は研究の対象地域を広げ、鹿児島の地域全体で坂道をどのように活用できるのかを探究していきたい。

## 「なぜ鹿児島には地下鉄がないのか」小平田優芽

なぜ鹿児島には地下鉄がないのかという疑問を持ったことから、鹿児島県の現在の状況で地下鉄開通の可能性はあるかという観点から本研究を行った。すでに開通している県を調べてみると、「渋滞緩和」が地下鉄設置の主な目的であり、全国の中でも渋滞がひどいとされる鹿児島で、小規模であっても開通すれば鹿児島県の交通事情に対しても効果があると考えた。市中部で特に渋滞がひどい部分にのみ開通させることを想定し、福岡市地下鉄における建設費等や過去に廃止された川崎縦貫鉄道計画を参考にして、想定される費用を計算した。それらの結果と、現在の鹿児島市交通局の収益状態を加味し、現状での地下鉄開通が抱える課題について考察した。

## 「日本語教育が必要な生徒に対する鹿児島の教育」坂元利奈

外国籍である等の理由から、日本語での日常会話ができない生徒（児童）のことを指す、「日本語教育が必要な生徒（児童）」に対する鹿児島の教育に興味を持った。現在の鹿児島の日本語教育が必要な生徒（児童）に対する教育は、別室での授業を推奨している。しかし、学習指導要領や先生方の意見をもとに、通常学級で他の生徒（児童）と関わりながら学ぶことが大切だと感じる。そこで、通常学級での授業を推奨した時の課題と解決策を先生方からのアンケートや、AIの回答をもとに考えた。今後は、日本語教育が必要な生徒（児童）が鹿児島県で、十分な教育を受けることができるための効果的な方法や最適なプログラムについて考えていきたい。

### 鹿児島県立甲南高等学校

#### 「空き家を活用した地域再生」東優羽 中山心陽 谷優花

鹿児島県では高齢化に伴う空き家の増加が課題である。空き家活用により防犯対策や地域の活性化が期待される。本研究は、空き家を用いて鹿児島県の若年層の割合を増やすための子育て世代の誘致を目的とする。

研究方法は、空き家活用事業の成功事例を分析し、子育て支援施設として空き家の活用方法を考案する。その後、実際にリノベーション等を行っている企業を訪問し改善点を明確化する。そして施設を利用した若年層の誘致案を考える。

研究を通して、魅力を活かした地域再生により移住者の増加やそれに伴う経済効果を期待できると考えた。

今後は、この案の実現化に向け企業や市などに働きかけ、鹿児島県の活性化に寄与していきたい。

### 鹿児島県立中央高等学校

#### 「鹿児島県民の魚の消費を促すには」

中島凜 池田愛里 藤田琴音 大渡綾奈 松山月菜

鹿児島県は漁獲量が多いにもかかわらず、魚の消費量が全国的に低い。本研究では、鹿児島県民の魚介類消費量を向上させるための具体的な方法を検討し、その効果を検証することを目的とした。探究方法としては、スーパーでぶりのレシピや栄養価ポスターを掲示し、昨年との売上比較やアンケート結果を分析した。その結果、ぶりの価格が上昇したにもかかわらず売上は5万2411円増加し、栄養価ポスターを見て購入した人が33%に達した。これにより、情報提供が消費意欲を高める可能性が示唆された。今後は他店舗での比較や、旬の魚の活用など、さらなる消費促進策を検討する。

### 鹿児島県立錦江湾高等学校

#### 「パール桜島の観測を目指して」湯ノ口叶人 新屋敷碧 藺牟田博雅 赤崎汐音

私たちは、パール富士と呼ばれる自然現象に興味を持った。しかし、本校から富士山は遠く、現地での観測が難しい。そこで、身近な桜島で同様の現象を観測したいと考え、まだ目をつけられていなかったパール桜島の研究を始めた。研究は、月が上る速度と月の出時刻からパール桜島ができる時間を予測し、月の出方位からパール桜島を観測できる場所を予測するというところまで進めた。そして、実際に観測に行き撮影に成功するところまで来ている。現在は学校のインスタグラムにて情報発信を行っている。最終的には、パール桜島の観測条件を手軽に調べられるWebサイトを開発し、鹿児島の観光業発展や魅力の再発見につなげたい。

**鹿児島県立加治木高等学校****「かごんまをわっぜよかここにすっど〜」上村万菜 久木田結愛 厚地紗英 田辺颯奈**

鹿児島における外国人観光客数の増加に着目し、持続可能性かつ外国人にも鹿児島の良さを伝えるためにQRコードを使った観光を提案する。鹿児島を訪れた外国人から、外国語表記が少なく、交通の便が悪いという意見が挙げられている。看板の代わりに老朽化のないQRコードを地方の駅やバス停、地元の歴史的博物館に設置し、複数言語での情報を提供することで外国人の観光がより快適となる。また、QRコードの活用例としてARを使った案内も作成した。このARは、自作の立体的な西郷どんが鹿児島を案内するものだ。QRコードは「環境」「文化」「経済」の3つの観点から鹿児島にサステナブル・ツーリズムを広げる良いきっかけになると考える。

**鹿児島県立大島北高等学校****「奄美の食文化に名を刻む〜隠れた万能桑〜」****川上菜里 黒松七華 野村三四郎 大山 崇寛 岩崎悠泰 上野翔空**

日本の産業発展を支えた養蚕業・製糸業は世界シェアの7割を占める時期があり奄美大島においても伝統工芸品である大島紬の糸を作るために、以前は養蚕が盛んに行われていた。しかし、絹糸の輸入量の増加や化学繊維の誕生によって国内の養蚕業は衰退し蚕の餌となる桑の葉の栽培量も減少した。奄美大島においては大島紬の生産量の減少もあり耕作放棄された桑畑が身近に見られる。しかし桑には抗菌作用や糖の吸収を抑制する作用など、様々な効能が期待されることを知り、この眠っている資源を蚕の餌としての活用ではなく桑の効能を利用した別の活用を提案出来ないかと考えた。将来的には桑を利用した商品の開発を目指したいと考える。

**鹿児島純心女子高等学校****「地域の宝を全国へ」大迫未由 小野田爽乃 坂本李世**

桜島大根は鹿児島の宝として、その巨大なサイズと高い栄養価から健康効果も期待される一方、従来の大根と異なる処理方法や調理の難しさから家庭での利用が進まず、多くが廃棄され生産者は苦慮しています。現状や特徴を踏まえ、私たちは桜島大根を使ったおでんの試作により、その魅力を広く伝える解決策を提示。鹿児島内の協力店舗との連携を通じた普及活動により、伝統野菜の価値向上と地域農業の活性化を目指すとともに、切断や調理工程の困難さという課題への改善策も追求していきます。

**「未来を育む、緑の魔法～SDGs への一皿～」 塗木天穂 中村詞乃 橋口紋奈**

ユーグレナの豊富な栄養と環境貢献に着目し、食への好奇心からその可能性に気づいた私たちは、福岡で得た知見を活かし鹿児島の特産品と融合したスイーツの開発に挑戦中です。ホワイトチョコとの調和を模索し、低価格でのユーグレナ調達にも成功。現在、中身や価格、広告戦略などの細部を調整しながら、地域連携を強化して若年層への訴求を目指し、健康と環境、地域の魅力を融合させた新感覚スイーツの完成に向け日々試作と交渉を重ねています。

**「おちゃれに生活～鹿児島の廃棄茶葉でおしゃれな生活を～」 下園杏瑠咲 田中彩音  
永田真子 野村杏**

鹿児島純心女子高校の1年生の探究活動では、身の回りや地域の課題を発見し、その原因を探り、その解決策をビジネスアイデアとして提案する活動を行います。「おちゃれに生活～お茶活でおしゃれな生活を～」は、鹿児島のお茶農家と連携し、廃棄茶葉を有効活用したキャンドル等のおしゃれ雑貨を制作・販売、その収益でオリジナルブランド茶を開発するビジネスアイデアです。島津家など鹿児島らしいデザインのパッケージやリサイクル可能な素材を採用し、SNSでの情報発信を通じてリピーター獲得も狙います。地域資源の活用と環境負荷の軽減を実現しながら、観光客や外国人にもお茶の魅力と健康志向の価値を伝える取り組みです。

**お問い合わせ先**

鹿児島大学 法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター

〒890-0065

鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学郡元キャンパス

総合教育研究棟 3F

TEL：099-285-7532 FAX：099-285-7625